

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 66 》

6時間以上を要し、患者にかかる負担が大きくなること
が多い膵臓がんや胆道がんの
手術。合併症を起こすリスク
もあり、少しでも患者の負担
を減らそうと、県立中央病院
は2年前から手術に新たな方
法を導入した。入院日数を短
縮し、術後すぐに再発防止の
ための化学療法を始められる
メリットがある。

肝胆膵外科副科長の鷹野敦
史医師によると、肝臓、胆の
う・胆管、膵臓の手術は「難
度が高い症例が多く、一つ一
つが大手術になることが多
い」。進行がんの場合、再発
防止のために術後の化学療法
が必要だが、退院まで3〜4
週間かかっていた。

同病院は2年前から、膵臓



鷹野 敦史
肝胆膵外科副科長

化学療法を早期に開始

がんや胆道がんのうち、十二
指腸に近い膵頭部がんや胆管
がん、十二指腸乳頭部がんに
対して行う「膵頭十二指腸切
除術」に新たな方法を導入。
切除した膵臓と小腸をつなぐ
際に使用するチューブを、術
後に抜く必要のないものに変
更することで、合併症が起こ
らなければ2週間以内に退院
できるようになった。

鷹野医師は「膵臓がんや胆
道がんは術後の再発率が高
い。手術で取り切れなかった
がんが、より小さい細胞のう
ちに抗がん剤治療を始めるこ
とが重要」と入院期間を短縮
する意義を説明する。

一方、胆石などで胆のうを

摘出する手術でも、傷を小さ
くし患者の負担軽減に努めて
いる。15年ほど前から、腹部
に3、4力所小さな穴を開け、
手術器具やカメラを挿入する
腹腔鏡下手術が主流となつて
いるが、同病院は昨秋から、
へその部分の1力所の穴から
胆のう摘出を行う「単孔式腹
腔鏡下胆のう摘出術」を取り
入れた。痛みが少なく、術後
の傷も目立たないという。

鷹野医師は、いずれの手術
も「炎症が少ない場合など条
件があり、全員ができるわけ
ではない」としながらも、「少
しでも患者さんの肉体的、精
神的負担と、合併症のリスク
を減らす努力をしていきたく
い」と話している。

▶第2、4木曜日に掲載し

肝臓・胆のう・膵臓の 位置と構造

